



2025-26 年度国際ロータリー会長に ブラジルのデ・カマルゴ氏が選ばれる

サントアンドレ・ロータリークラブ（ブラジル、サンパウロ）会員のマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏が、会長指名委員会によって2025-26年度国際ロータリー会長に選出されました。対抗候補者がいない場合、9月15日に正式にノミネーとなります。

デ・カマルゴ氏は、トップダウンでロータリーの公共イメージを強化したいと考えています。「今日のロータリーは、入会者と資金の面で競合相手が多く存在する」とデ・カマルゴ氏。「特にいくつかのゾーンにおいてブランドを若返らせる必要があり、会長が世界中のロータリアンに向けて話せるように、コロナ禍で学んだ会議ツールを活用するべきです。また、政治、コミュニティ、ビジネスのリーダーとの長期的パートナーシップを確立する必要があります。私たちの最大の資産である140万人のボランティアの存在をアピールしていきましょう」と述べます。

デ・カマルゴ氏は任命とガバナンスのためのロータリーの手続きを改善したいとも考えています。「ロータリーは、役職に任命する際のシステムをより透明性のあるものとし、明確な資格要件を設け、データに基づいて結果を評価するべきです」デ・カマルゴ氏

GraficaBandeirantesの元社長であり、ブラジルにおける印刷業界のコンサルタントを務めています。印刷とグラフィック業界の関連団体で会長や委員長を歴任し、これにはブラジル・グラフィック・テクノロジー協会やブラジル・グラフィック産業協会が含まれます。

所属ロータリークラブがスポンサーしている障害のある子どもたちのためのプロジェクト、Casa de Esperanca（希望の家）の理事も務めており、このプロジェクトで毎年、15万人の障害児を支援しています。

米国ならびにドイツに留学経験があり、EAESP-Fundação Getúlio Vargasからビジネス、Faculdade de São Bernardo do Campoから法学の学位を取得。1980年にロータリー入会。国際ロータリー理事、ロータリー財団管理委員、RIラーニングファシリテーター、委員会委員と委員長、タスクフォースメンバーを歴任し、妻デニースさんとともにメジャードナー、ロータリー財団ベネファクターとなっています。

2025-26年度国際ロータリー会長を選ぶ指名委員会のメンバーは次の通り：

Larry A. Lunsford（委員長、Kansas City-Plaza ロータリークラブ、米国）、Mary Beth Growney Selene（幹事、Madison West Middleton ロータリークラブ、米国）、Şafak Alpay（Istanbul-Sisli ロータリークラブ、トルコ）、Ann-Britt Åseb（Falun-Kopparvågen ロータリークラブ、スウェーデン）、James Anthony Black（Dunoon ロータリークラブ、スコットランド）、Basker Chockalingam（Karur ロータリークラブ、インド）Celia Cruz de Giay（Arrecifes ロータリークラブ、アルゼンチン）、Susan C. Howe（Space Center [Houston] ロータリークラブ、米国）、黒田正宏（八戸南ロータリークラブ、日本）、Roger Lhors（Pont-Audemer ロータリークラブ、フランス）、Frederick Hsiu-Ming Lin（Taipei Tungteh ロータリークラブ、台湾）、Anne L. Matthews（Columbia East ロータリークラブ、米国）、三木明（姫路ロータリークラブ、日本）、Eun-Soo Moon（Cheonan-Dosol ロータリークラブ、韓国）、Ekkehart Pandel（Bückeburg ロータリークラブ、ドイツ）、Sambasiva Rao Patibandla（Jubilee Hills ロータリークラブ、インド）、Steven Snyder（Auburn ロータリークラブ、米国）